

トピックス

第24回IFPMA(国際製薬団体連合会)総会が、2008年11月18日と19日の両日、米国ワシントンD.C. リッツカールトンホテルにて開催されました。同会では、政府関係者、国際機関関係者、学識経験者、ジャーナリストなど多くの方が参集し、世界の公衆衛生問題に対する活発な議論が行われました。また総会に先立って開催されたIFPMA規約会議では、今後2年間のIFPMA会長・副会長職の選出、活動優先事項などが承認されました。

IFPMA規約会議

規約会議とは、今後2年間のIFPMAの活動運営面に関して、組織人事、予算、活動内容の観点から議論、決定がなされる会議のことで、今回は各加盟協会・加盟会社の代表者および事務局の総勢約70名が出席しました。

今後2年間のIFPMAの組織運営を担う会長・副会長職の任命については、会長職としてフレッド・ハッサン氏(シェリング・プラウ会長兼CEO)、副会長職として内藤晴夫氏(エーザイ社長兼CEO)の再任が決定されたほか、新副会長職としてデビット・ブレナン氏(アストラゼネカCEO)の就任が決定されました。

また本会では、今後のIFPMAの活動内容に関して、以下6項目の優先事項が紹介、承認されました。

- ①国際機関や途上国との長期的な友好関係を築いていくとともに、IFPMAの活動の認知度を高めること
- ②医薬品、生物製剤、ワクチンに対する持続的なアクセスを実現するとともに、途上国特有の疾患に対するキャパシティビルディング(品質管理等の技術援助)と研究開発に努めること

③知的財産権の保護と革新的医薬品創出のための枠組みに努めること

④ICH等の規制、透明性確保のあり方、最適な医療システムに関する情報を途上国、新興国へ提供し、世界の医薬品の品質確保に努めること

⑤偽造医薬品対策による患者の保護に努めること

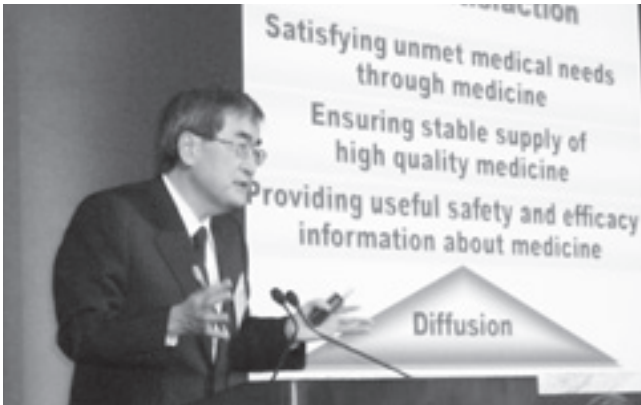
⑥コード遵守、臨床試験情報の結果開示など医薬品の倫理的側面に継続的に取り組むこと

本年よりIFPMA理事長に就任したアリシア・グリニッジ氏からは、上記6項目の遂行に当たり、IFPMA事務局はジュネーブの各国際機関と連携しIFPMAの知名度を高めていくこと、また加盟協会・加盟会社を取り巻く国際的課題の解決に向けて、コーディネート役を努めていくことが表明され、参加者の承認を得ました。

これらIFPMAの活動事項は、海外展開を推進する国際企業にとっては欠かせないテーマであり、今後さらなるグローバル化を目指す日系企業には、国際議論への今まで以上の参画、協力が求められていくことでしょう。



IFPMA規約会議の様相



スピーチをする内藤副会長



パネルディスカッションの様様

第24回IFPMA総会

IFPMA総会は2年に一度開催されるIFPMA内最大規模のイベントで、IFPMA加盟協会・加盟会社に加え、世界各地から政府関係者、WHO等国際機関関係者、NGO、学識経験者、ジャーナリストなど多方面からゲストを迎え、時宜を得たテーマについてスピーチ、ディスカッションがなされるオープンフォーラムです。今回は、「Improving Global Health through Innovation and Better Access(イノベーションとアクセスの改善を通じて、世界の健康の進歩を)」をテーマに、主として途上国の公衆衛生問題の認知とその改善アプローチに焦点が当てられ、「医療におけるイノベーションの役割」「国連ミレニアム開発目標の達成に向けて求められること」「新興国におけるイノベーション促進策」「途上国におけるキャパシティビルディングの取組み」「米国医療における官民パートナーシップの取組み」「今日の企業の社会的責任について」「研究開発による途上国支援について」の7つのパネルテーマに分かれてディスカッションが繰り返されました。パネルテーマ「国連ミレニアム開発目標の達成に向けて求められること」では、ケニア、ウガンダ両国大臣よりおのこの保健衛生状況に関する紹介とともに、各種キャパシティビルディングについて支援依頼表明がなされたほか、ブルキナファソの大統領夫人からも基調講演が行われるなど、今回の総会テーマを象徴するスピーチが数多くなされたことは特筆すべき点です。

日本からは、オープニングランチ、開会挨拶に引き続き執り行われた最初のパネル「医療におけるイ

ノベーションの役割」において、内藤製薬協副会長(IFPMA副会長)が産業側のスピーカーとして登場し、製薬産業による研究開発イノベーションの促進には知的財産権が重要な役割を果たしていること、またイノベーションの貢献には、実地から生み出された利用価値の高い知識創造(Knowledge creation)のプロセスを回転させ“diffusion(浸透)”を起こすことが鍵であることを、製薬協が継続的に取り組むカンボジア政府支援プロジェクトを事例として述べました。(内藤副会長のスピーチの詳細はp.36, 37を参照ください)

1日半に渡る総会は、総勢250名もの参加者の下、大変盛況な会となりましたが、最終日に執り行われたハッサン会長からの「われわれ製薬産業は今後も、すべてのステークホルダーとの継続的対話を大切にし、より良いベネフィットをもたらしていく、つまり、学び(listen&learn)、相互理解を大切にし、世界の健康に貢献していく所存である」との力強い決意表明で会は締めくくられました。

(IFPMA 船越 啓之、国際部部长 紙屋 稔)

